

**経済産業省の
17戦略分野等における
リ・スキリング・人材確保の主な支援策**



1 7分野等におけるリスキリング・人材確保の主な支援策 (経済産業省)

1. スキル情報等の可視化

- 職業・求人情報を元に、産業・職種ごとにAIでスキルを抽出・整理し、各産業におけるスキル標準の作成（必要なスキルの整理）をサポート。
 - ✓ スキルの表現を他業種となるべく統一して産業全体でスキルを体系化。
 - ✓ 産業ごとのスキル標準や資格体系等がある場合は、産業全体のスキル体系に沿った表現に読み替え可能とすることで、業界外からの人材の確保・育成にも活用可能。

2. プログラム開発支援（「第四次産業革命スキル習得講座認定制度」について）

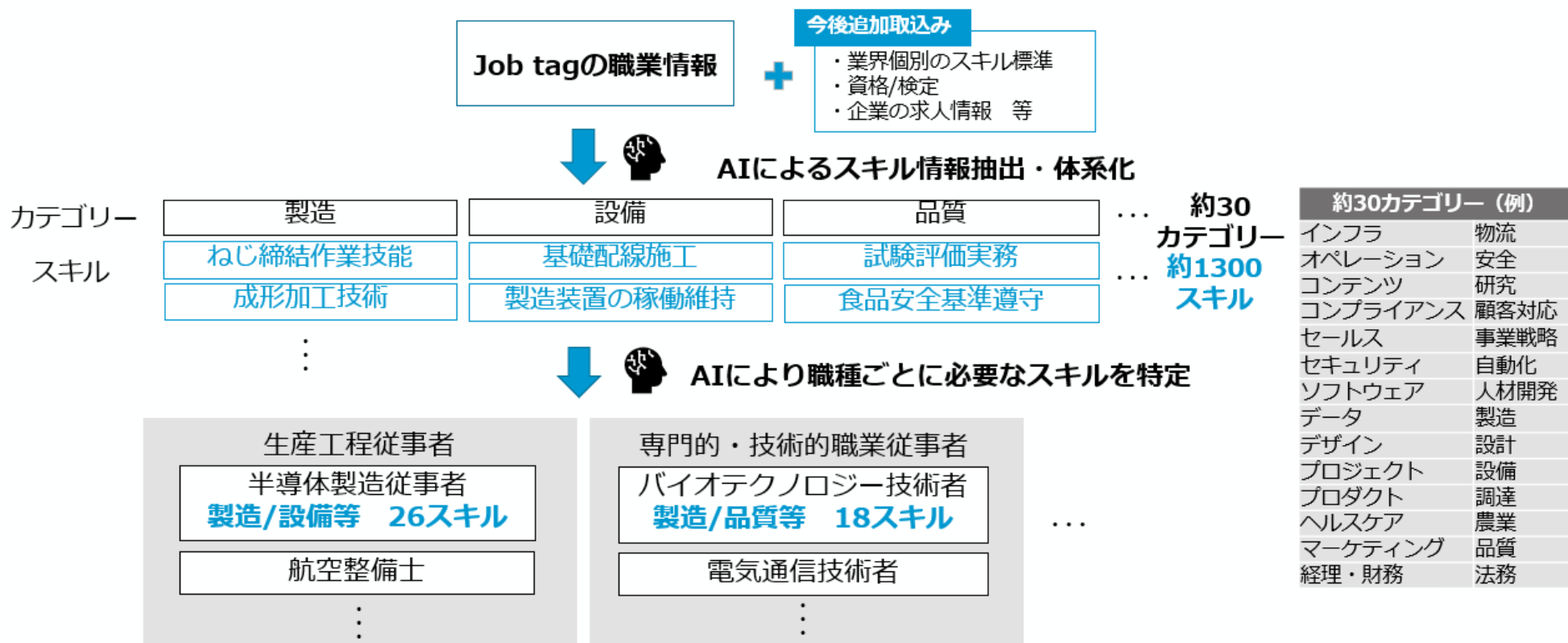
- 第四次産業革命スキル習得講座認定制度（Reスキル講座）では、IT・データ関連（ものづくりを中心にITを活用する場合等）の専門的・実践的プログラムを経済産業大臣が認定し、厚生労働省における教育訓練給付金の対象につなげている。

3. スキル関連情報のデータ基盤に関する調査・検証

- 関係省庁の連携の下、人材、スキル情報を一体的に提供する横断的なデジタル基盤の構築を検討。

産業横断スキル標準のイメージ

- 職業・求人情報を元にAIでスキルを抽出し、戦略分野に関連する職種を中心に、業界団体等と連携しながら職種別に必要なスキルを整理。
- 今後各業界のスキル標準や資格情報、企業の求人情報等を取り込むことで継続更新。



(参考) 職種ごとのスキルの例

半導体製造従事者

重要度	スキル名	
4	製造装置の稼働維持	生産工程自動化機器の運用
3	工程品質保証	生産設備の稼働維持
	プロセス監視・自動制御操作	標準作業の実行力
	プロセス挙動監視	生産工程衛生管理オペレーション
	製造工程の運転条件制御	計測機器による状態診断
	工程別動作試験・性能調整の実施	計測データに基づく設備診断
2	工程内品質検査	目視検査
	不適合品の現場対応	装置稼働の実務遂行能力
	工程衛生の確保	装備部品管理と状態維持
	操作手順書活用による条件設定	道具・備品最適化管理
	表計算ソフト活用	リアルタイム情報伝達オペレーション
1	計測データ品質検証	マルチタスク作業展開力
	計測と業務データ記録	物理対象情報の照合・検証作業
1	コンピュータソフトウェア操作基礎	

バイオテクノロジー技術者

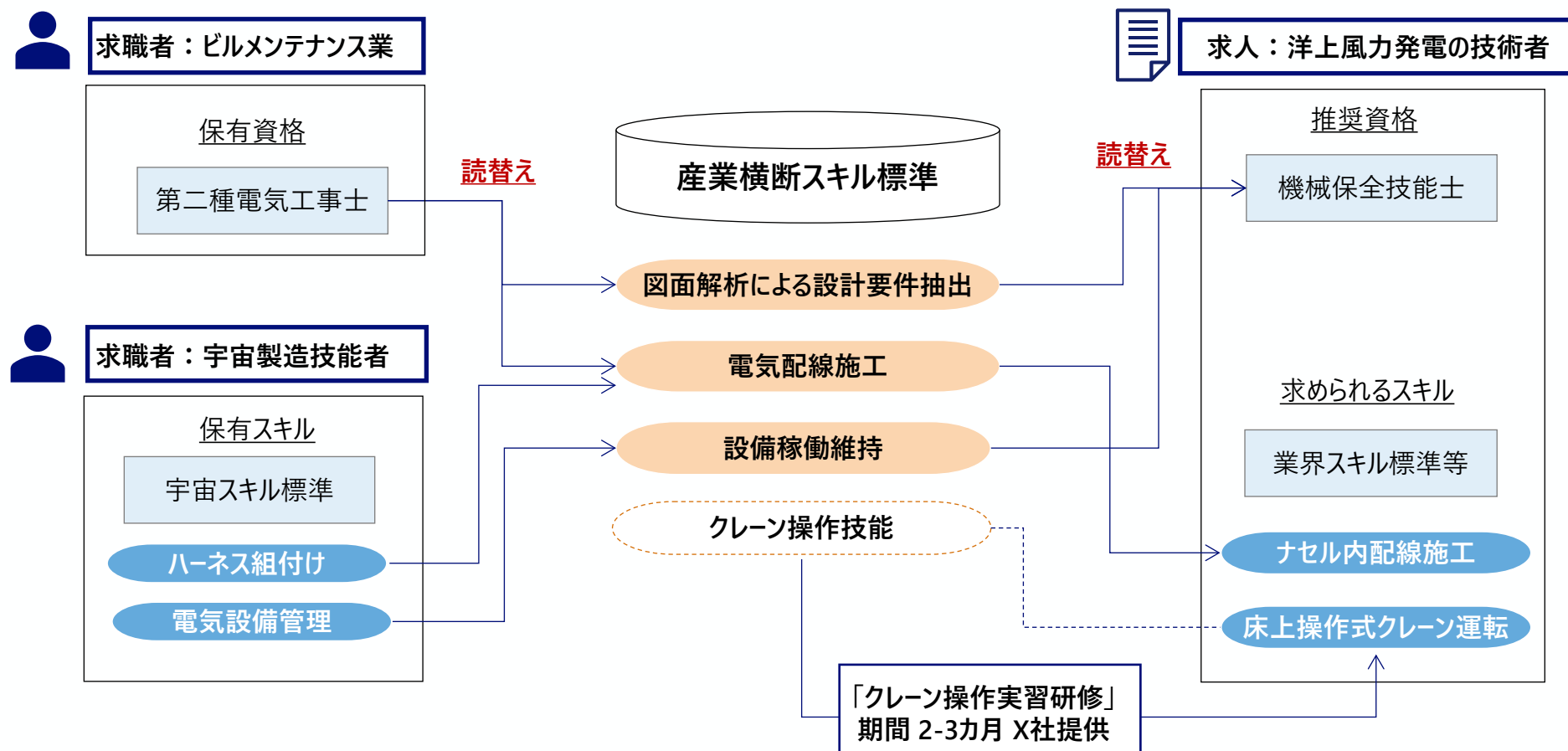
重要度	スキル名	
4	バイオテクノロジー応用技術	
3	薬品・試薬取扱および反応制御	実験データ解析と特性評価
	分析機器運用技術	試験評価実務
	品質マネジメント実務	顕微鏡観察実務
	発酵プロセス制御	研究開発プロセス設計
	統計的データ解析	データ収集プロセス設計
2	実験設計	
	表計算ソフト活用	外国語運用実務
	先行技術・知識のリサーチ	衛生環境整備実務
	実験記録・研究成果文書化技法	データベース検索

スキル重要度を5段階（0～4）で判定

重要度	説明
4 (完全に一致)	職業の核心的な業務内容であり、当該スキルが必須かつ中心的に求められる。職業内容とスキル定義がほぼ完全に一致する。
3 (強く関連)	職業の主要な業務の一つであり、当該スキルを実践レベルで活用することが求められる。
2 (関連あり)	職業内で部分的に必要とされ、当該スキルの基礎知識や概要が求められる。
1 (弱く関連)	間接的に関連する、または補助的に必要とされる程度で、スキル活用を主目的とはしていない。
0 (ほぼ無関係)	職業内容とスキル説明文に、関連性がほとんど見られない。

業界外からの人材確保・育成への活用

- 産業ごとのスキル標準や資格体系等がある場合は、産業全体のスキル体系に沿った表現に読み替え可能とすることで、業界外からの人材の確保・育成にも活用可能。



スキルと紐付いたリスキリング講座を受講することで
業界外からの移動が可能に。

第四次産業革命スキル習得講座認定制度（Reスキル講座）について

- IT・データを中心とした将来の成長が強く見込まれ、雇用創出に貢献する分野において、社会人が高度な専門性を身に付けてキャリアアップを図る、**専門的・実践的な教育訓練講座**について、**専門機関や産業界の見解を踏まえ、客観的な指標に基づいて審査し、経済産業大臣が認定する制度**。 ※令和8年4月現在、467講座が認定。
- 厚生労働省が定める一定の要件を満たし、**厚生労働大臣の指定を受けた講座は「専門実践教育訓練給付」の対象**となる。

第四次産業革命スキル習得講座認定制度について

<対象分野・目標レベル>

✓ 対象分野

- ①IT分野 — デジタル・トランスフォーメーション（DX）推進に関する知識及び技術
- ②IT利活用分野 — 自動車分野のモデルベース開発、自動運転、生産システムデジタル設計

✓ 目標レベル：

- ①IT分野 — ITSSレベル3以上を目指す
 - ・当該教育訓練が対象とする技術や手法等を活用し、専門を持つプロフェッショナルを目指して、**要求された作業を全て独力で遂行するレベル**
- ②IT利活用分野 — ITSSレベル4相当（以下のいずれか）を目指す
 - ・当該教育訓練が対象とする技術や手法等を活用して、**業務上の課題の発見と解決をリードするとともに、後進育成にも貢献できるレベル**
 - ・当該教育訓練が対象とする技術や手法等を活用して、**新規ビジネスやサービス等の創出が可能であるほか、後進育成にも貢献できるレベル**

(参考) 第四次産業革命スキル習得講座の例

※教育訓練給付金の対象講座

講座名

講座概要

習得できるスキル

訓練時間

IT分野

AI×WEBマーケティング実践講座

(YOUSEED株式会社)

WEBプロモーションの全体像からマーケティング知識を学び、ビジネス設計できる力を養うとともに、実践的に活用できるAIスキルも習得できる講座

- ・DX推進スキル標準(DSS-P)における「ビジネス戦略策定・実行」「ビジネスモデル設計」「データ・AI活用戦略」「データ・AI活用業務の設計・事業実装・評価」等のスキルを習得

30時間

IT活用分野

自動運転システム構築完全講座

(株式会社zero to one)

自動運転システム構築について、主にAutowareを用いて全体像とその実践を学ぶ講座

- ・自動運転をめぐる世界の技術の動向を受け、自社の技術開発や市場開拓戦略に活用できる
- ・Autowareを用いた自動運転システム全体を、土台となるROS/ROS2から理解することで、自社のニーズに応じて柔軟にシステムを企画・推進することができる 等

40時間

IT活用分野

ものづくりへITブリッジ人材育成プログラム

(一般社団法人中部産業連盟)

現場の問題・課題を見極め、ITツール、デジタル化を目的志向で実行できる人材や、自ら実行する人、具体的に指示できる人の育成。

- ・個としてのデジタルスキル強化・向上
- ・他者を広く巻き込み、成果を刈り取るマネジメントスキル
- ・ITスキル標準 (ITSS) レベル4

42時間

IT分野

ビジネスアーキテクト育成プログラム

(株式会社SIGNATE)

DXを牽引するビジネスアーキテクトとして、データドリブン戦略に基づき構想から成果創出まで一貫して担う力を体系的に習得できる講座

- ・DSS-Pにおける「ビジネスモデル設計」「事業計画策定」「プロジェクト推進・管理」「データドリブン戦略」「技術選定」等のスキルを習得

53時間

IT分野

AI・データサイエンス人材育成コース

(株式会社キカガク)

データ分析・機械学習・ディープラーニングなど、AI・データサイエンス技術を網羅的に学習し、ビジネスにおける実践力を養成する講座

- ・AI搭載アプリケーションを企画から実装まで一貫して行える力を身に付ける。また、調査力をはじめ、エラー解決力や問題対応力を養い、個人でも新技術への対応・学習を自立して進められるスキルを習得

191時間

(参考) 業界への講座開発等の支援事例

- 一部業界では、業所管課が予算事業によってプログラム開発や訓練設備等を支援。

洋上風力発電人材育成事業 (R8年度当初：5.7億円)

- ✓ 事業開発を担う人材、エンジニア、専門作業員の育成に向け、**カリキュラム作成やトレーニング施設整備に係る支援を2022年度から実施。**

例) 風と海の学校 あきた@秋田県

- ✓ **操船訓練に関するカリキュラムの作成**及び秋田県立男鹿海洋高校の大水深プール等の既存施設を活用した**訓練センターを整備。**
- ✓ 作業員・船員向けの基本安全訓練や、シミュレータによる作業員輸送船の操船訓練を提供、年間1,000人の修了生輩出を目指す。施設は男鹿海洋高校の生徒や近隣の小中学生にも開放。
- ✓ 作成したカリキュラムの他、GWOが定める育成プログラムも受講することができる。



BCRET (一般社団法人バイオロジクス研究・トレーニングセンター)

- ✓ 日本で唯一のバイオロジクス分野の開発、製造及び分析に関連する実習研修を実施し、産・学・官で協力して、**バイオロジクス分野の産業を推進する人材を育成することを目的として2017年8月に設立。**
- ✓ BCRETでの実践的技術研修については、厚労省の「次世代バイオ医薬品等創出に向けた人材育成支援事業（令和8年度当初1.5億円）」で**研修プログラムの実施や受講費を支援。**令和6年度は、約130名が受講。



(注) GWO(Global Wind Organization)：風車メーカーや発電事業者等が設立した、風力発電設備の作業員向け訓練プログラムの開発を行っている国際組織。また、写真等は各HPから引用。

産業横断の人材・スキル情報のデジタルプラットフォーム

- AX時代を見据え、戦略分野等における人材育成を加速するにはスキル情報の一体提供が重要。
- 関係省庁の連携の下、**人材、スキル情報を一体的に提供する横断的なデジタル基盤を構築。**

デジタル人材スキルプラットフォーム（仮称）

デジタル庁、厚生労働省、文部科学省、経済産業省の連携の下、独立行政法人IPAが構築。2027年春頃から順次サービスを開始していく。

公的なスキルタクソノミーと、マイナンバーと連携した個人のスキルIDによる関連情報の一体提供

スキル可視化

1. **各職種に求められるスキル**
職種毎の詳細スキル定義
分野・職種間の共通スキル
関連する資格情報
2. **個人のスキル証明/ギャップ**
保有スキルと希望職種の差
3. **スキルトレンド、動的更新**
最新の必要スキルの収集分析

リスキリング

1. **各スキルを取得できる講座**
大学、高専、工業高校
専修学校、職業訓練校
民間講座 等
2. **受講を推奨する講座例**
希望に合致する講座候補
3. **公的支援の情報**
教育訓練給付の対象講座

マッチング

1. **各スキルの需要、処遇**
職種・スキル毎の求人動向
職種・スキルと賃金の関係
2. **スキルに紐付いた求人情報**
HWの具体的な求人情報
3. **スキル需給の足下将来動向**
全国/地域のスキル需給分析

他の公的DBとの情報連携（例）

職業情報：jobtag

講座情報：マナパス、まなびDX
教育訓練講座検索システム

雇用情報：ハローワーク

民間サービスへの活用（例）

人材関連企業
スキル情報による求人、転職サービス

教育機関・講座提供事業者
スキル需要を踏まえた講座の提供

産業界、企業
必要な人材の採用・育成計画への活用